

グローバル・サウスと協力して 自由で開かれた国際秩序の再構築と サステイナブルな国際社会実現を目指す

経団連会長

十倉雅和

とくろ

まさかず



岸田総理には、国会会期中にもかかわらず、B7東京サミットにご来席を賜り、誠にありがとうございます。また、G7各国・地域の経済団体の皆さまの訪日を心から歓迎申し上げます。B7東京サミットの主催者である経団連を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

現在、国際情勢は複雑さ、不安定さを増しています。1990年代初めの冷戦終結から30年余りが経過し、平和の配当が言われた時代は完全に過去のものとなり、いまや自由主義的な国際秩序が大きな挑戦を受けています。時に「新冷戦」と呼ばれるほど地政学的な緊張は高まっております。また、100年に1度の公衆衛生上の危機と言われたコロナ禍によって助長された自国第一主義などの影響で、ここ数年、世界は分断傾向が顕著になっています。

これに追い打ちをかけるように、2022年2月にはロシアがウクライナを侵略しました。国連安全保障理事会常

任理事国の一角を占める国が、国家主権や領土保全という国際法の基本原則をあらゆるさまざまな形で蹂躪じゆうりんしており、平和と安全、国際秩序に対する深刻な挑戦と言わざるを得ません。また、侵略は世界的なインフレやエネルギー・食料危機などを助長しており、これを放置すれば、世界のブロック化さえ懸念される状況にあります。このような中、基本的価値観を共有するG7が結束を一層強固にし、厳格な対ロシア制裁ならびに強固なウクライナ支援を継続するとともに、自由で開かれた国際秩序の再構築に取り組むことが求められています。

世界の分断による影響を最も受けるのは、いわゆる「グローバル・サウス」と呼ばれる新興国・途上国です。

また地球規模の課題、とりわけ気候変動問題は、CO₂排出が増加の一途をたどっている新興国・途上国のコミットメントなくして解決は不可能です。G7が中核となり、多様な

価値観を有する国々から成る「グローバル・サウス」とも協力するかたちでサステイナブルな社会を実現することが求められています。

その鍵となるのが、かねて経団連が掲げてきた「Society 5.0 for SDGs」です。すなわち、イノベーションな科学技術と多様な人々の創造性・想像力を活用した問題解決型社会の実現を通じて、まずは地球環境の保護と持続的成長を両立させる、そして、その果実を公平・公正に分配することが重要であると考えます。これは、現在インドが議長国を務めている2023年のG20のテーマ、「One Earth・One Family・One Future」にも通じる考えです。

以上を踏まえ、本日は、各国・地域の経済団体の皆さまと、「持続可能な経済成長の実現」「G7としての結束の強化」「グローバル・サウスとの協力の推進」の観点から、経済・財政、貿易・投資、グリーン、デジタル、医療・保健などの論点について意見交換を行い、5月のG7広島サミットに向けた共同提言を取りまとめたいと思います。サミットの開会にあたり、私からは、共同提言に盛り込むべき事項として、特に重要と考えている2点に絞って申しあげます。

第一は、「自由で公正な貿易投資のためのクラブ」の立ち上げです。世界の分断を回避し、持続可能な成長を実現するためには、無差別原則に基づく貿易の推進、交渉を通じてより自由な貿易の実現、公正な競争条件やルールに基づく透明性と予見可能性の確保などをG7自らが体現し、順守していく必要があります。従来、我々B7は、WTOを中心とする多角的自由貿易体制の重要性を強調することで、この点を訴えてきました。しかし、安全保障の裾野が経済

活動にまで広がり、自由な経済活動の範囲が狭まりがちな今日にあっては、それだけで十分とは言えません。G7がリードするかたちで、自由で公正な貿易・投資にコミットするすべての国・地域と共に自由貿易のモメンタムを維持していく必要があります。もちろん、「クラブ」に参加する国・地域は一定の基準をクリアすることが求められますし、参加者相互間、そして内外で無差別であることが重要です。

第二は、2050年カーボンニュートラル実現のためには「多様な道筋」が存在するという点です。そのために、多様なエネルギー源と今ある技術、そして新しい技術を総動員することが重要です。この点、LNGを含む天然ガスが果たす役割はもちろんのこと、例えば、水素やアンモニアとの混焼、炭素回収・利用・貯蔵(CCUS)といった脱炭素技術を活用することが重要と考えます。こうした多様な道筋を認めていくことは、温室効果ガスの排出の多くを占める「グローバル・サウス」における脱炭素化にも大いに寄与すると考えます。

本日は、ただいま申しあげた点を含めて3つの討議で活発な議論をお願いしたいと思います。夕刻には各参加団体の代表の方々と共に、本日の議論の成果として岸田総理へ共同提言をお渡しする予定です。

5月のG7広島サミットにおいて、我々経済界の総意がサミットの成果文書に反映され、G7が中核となって、G20、さらにはグローバル・サウスへと協力・協調の輪が広がることで、自由で開かれた国際秩序の再構築とサステイナブルな国際社会の実現につながることを祈念して、私からの開会の挨拶といたします。